平成２９年度　こども食堂研修会報告

こども食堂について学ぼう！

こども食堂ってなあに？

～地域に求められるこども食堂をつくるには…～

１　日　時　平成 29 年 11 月 17 日（金）　13：30～15：45

２　場　所　橋本市教育文化会館　3 階第 1 研修室

３　内　容　①　子どもの現状とこども食堂の意義

和歌山大学准教授　谷口知美　氏

②　御坊こども食堂の運営について

NPO フードバンク和歌山会長　古賀敬教　氏

③　橋本こども食堂のさらなる展開にむけて

橋本こども食堂認定②団体より報告

４　参加者　市民団体、主任児童委員、社会福祉法人、共育コーディネーター、他市職員、県職員、市職員、一般　　総計３６人

【報　告】

①　谷口准教授の話の中で、「ケア付食堂」と「共生食堂」という、こども食堂の類型が出された。今、橋本市でこども食堂を運営している２団体も、「自分たちは、どの食堂を目指しているのか？」という目的を再認識する機会になった。

②　NPO フードバンクの古賀会長からは、実際に行っている具体的な話の中で、ボランティアや資金面に関する話も出され、「フードバンク」の認識を高めるよい機会となった。

③　「わいわいこども食堂はしもと」代表、「こくやぐちこども食堂」代表からは、こども食堂運営にいたるまでの準備の苦労話やこの活動にいたった熱い思いが語られた。

【参加者から出された感想】

・子どものためだけでなく、地域の高齢者も含めて世代を超えて交流できる場としてこど

も食堂を活用できるのではないかと感じた。

- 精神的にフォローできる何かがしたいと思い、現在、模索中。
- ボランティアとして学習支援している。いろんな団体とコラボして支援を広げていきたい。他のこども食堂とも連携して学習支援できるかもしれない。
- こども食堂が親を甘えさせてしまうような取組になってしまうのではないかという懸念もある。
- 公民館職員ではあるが、地元市民ということもあり、職を離れて活動を支援している。こうやぐちこども食堂は「共生食堂」を目指して取り組んでいくのがいいのではないかと感じた。
- 地域の中で、こども食堂をつくろうという市民の方々の気持ちを高めていくのが、賞金の仕事だと思っている。こども食堂もいろんな目的をもっていいんだということを学ばせてもらった。

- こども一人で来れるように、小学校区ごとでこども食堂ができればいい。
- こども食堂はイベントではない。月数回レベルの実施では子どもを救えない。そこをもっと皆で知恵を出し合っていかなければならない。ケア付食堂でも救えない子もいる。場合によっては、行政や学校につないでいくことも必要なときもある。こども食堂という場で、心温まる体験ができても、家に帰ると寂しさがある…根本解決の仕組み、しかけはどうすればいいのだろう、と考えさせられた。高野口のこども食堂の学習支援の手伝いもしたい。
- 老人施設で働いているが、非常食の賞味期限切れの食品がムダになっている状況をどうしようか、という思いがあって今回この会に参加させてもらった。

本会の終了にあたり、今年度、本市で実施した「子どもの生活に関する実態調査」に関する内容の一部に触れ、極度の貧困だけにターゲットをあてるだけでなく、懸命に働いて体にも、時間にも余裕のない生活を送っている親たちのことも見落とすことなく、地域のあたたかいコミュニティができることを願いたいとまとめ、本会を終えた。